

### 第三者評価結果

事業所名：きらぼし保育園

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>全体的な計画には、理念や方針、保育目標、園の特色、各年齢ごとの養護と教育、健康支援、衛生管理、食育、安全事故予防、地域の実態などを記入している。特に園の特色として、食育や英語教育をあげている。初めて食事を体験する子どももいることから、楽しみながら食べることを目標としている。低年齢から英語を耳にし、英語に慣れる教育を特色としている。また、0～2歳児のみの保育のため、各年齢ごとの養護と教育について細かく記載している。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>家庭的で温かい、安心できる環境を作るよう努めている。ビルの2階という限られた環境ではあるが、室内には季節の装飾や手作りの物入れなど、子どもたちが喜ぶ明るい環境を整えている。室内やトイレは、業者の他、頻繁に保育士が清掃し、清潔を保っている。子どもたちは玩具を口にすることがあるため、玩具類は毎日消毒している。人的環境としての保育士は、威圧的な言葉は絶対に使わず、子どもが「いや!」と言ったときは、必ず受け入れるようにしている。子どもたちは「くん、ちゃん」で呼ぶことを徹底している。「だめ」「早くしなさい」などの言葉は使っていない。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>言葉で意思を伝えることが難しい年齢のため、子どもの表情を確認し、思いを汲み取って、子どもの気持ちを代弁するようにしている。自己主張が強くなっていく子どもは、友だちとトラブルになることがあるが、相手の気持ちや、何故いけないことなのかをわかりやすく伝え、どのような言葉で伝えるかなど、言葉を促すようにしている。一人ひとりの発達の状況は異なり、子どもの特性を理解して寄り添っている。子どもの指差し行動には、指差しした方に何があって、何が言いたかったのかを理解して、言葉での会話のきっかけを作ったりしている。乳児の喃語（「あうあう」「んまんま」など赤ちゃん特有の言葉）には、応答的な関わり（子どもが話しかけてきたことに対して、大人が子どもに寄り添って応えること）を行っている。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>子どもたちが自分で取り組もうとする気持ちを受け止めて見守り、必要に応じて援助している。0歳児は手で食べたり、スプーンを持つことを覚えること、1歳児はスプーンを握って食べ物をすくうこと、2歳児はスプーンを正しく持ってマナーを覚えることなど、発達段階に応じた指導計画を立て、生活習慣を身に付けるようにしている。トイレも無理強いせず、自分で行きたいサインを出した時にトイレに座るよう支援し、出なくても座れたことをほめながら、トイレに慣れていくようにしている。午前は外遊びが多いため、午睡の前に着替えるようにしている。</p>	
<p>A-1-(2)-④</p> <p>【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>子どもたちのロッカーには、自分の顔写真を貼り、自分の持ち物は自分のロッカーに入れるようにしている。こどもたちは、登園時だけでなく、着替えの袋を自主的に片付けている。室内遊びでは、コーナーにおもちゃや絵本を置き、好きな物で遊べるようにしている。這い這いをする子どもがいる時は、サークルなどで安全なコーナーを作り、子どもが自由に動けるようにしている。現在、子どもたちが皆が歩けるようになり、1、2歳児と一緒に遊ぶこともある。小さい子どもは、上の子どもの真似をして遊んだり、トイレに行くのを見て真似をしてトイレに座ったり、2歳児は小さい子どもの面倒を見たりと、友だち関係が広がり、様々な体験をしている。</p>	

A-1-(2)-⑤  
【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

0歳児の保育は、安心や安全に配慮し、喃語のある子どもにはしっかりと応答しながら、職員は抱っこやおんぶをしてスキンシップを大切にして関わっている。床にマットを敷いて、這い這いができるようにし、動きがあった時には保育士が必ず傍に付くようにしている。床にあるおもちゃも、柔らかい危険のないおもちゃを使用している。柱の角やドアの開け閉めなどの注意を徹底している。衣服も常に清潔にし、手洗いは保育士と一緒にいき、「きれいになったね」などの言葉を掛けている。

A-1-(2)-⑥  
【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

1、2歳児は、まだ甘えたい気持ちも強く、保育士とのスキンシップを楽しんだりしている。保育士はしっかり子どもの気持ちを受け止めている。身の回りの物や人に関心を持つ時期でもあり、言葉がうまく話せないためトラブルが起こることもある。保育士が相手の気持ちを伝えたり、本人の気持ちを代弁したりしながら、言葉での伝え方を促したりしている。また、身の回りのことや靴を自分で履くこと、ズボンを自分で履くことなど、自分でやってみようとする気持ちが芽生え、保育士はその気持ちを大切にしながら見守り、自分でやろうとしたことを褒めながら支援している。遊びの中でも、ヒントを与え、子どもが自発的に考えられるよう働きかけている。

A-1-(2)-⑦  
【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

<コメント>

0～2歳児を対象とした保育所のため、評価外とする。

A-1-(2)-⑧  
【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

b

<コメント>

現在、障害のある子どもは在籍していない。昨年、1昨年と重度の障害児が利用し保育を行っていた。保護者や関係機関と連携を取りながら受け入れを行った。また、他の子どもや保護者に配慮し、障害の子どもが快適に過ごせるよう工夫し、保育士が障害の研修を受講して保育した経験がある。今後も障害児の利用希望に対応できるよう、体制を整えている。

A-1-(2)-⑨  
【A10】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

通常の保育時間は7:30～18:30、延長保育は朝は7:00～7:30、夜は18:30～19:00としているが、現在、延長保育の利用者はいない。朝の延長保育は早番の保育士が担当し、夕の延長保育は遅番の保育士が担当するようにしている。日中の申し送り事項は、申し送り表を担当保育士に渡し、保護者に口頭と申し送り表で日中の様子を伝えることにしている。おせんべいなどのおやつとお茶を補食として提供している。

A-1-(2)-⑩  
【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。

<コメント>

0～2歳児を対象とした保育所のため、評価外とする。

A-1-(3) 健康管理	第三者評価結果
【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b
<コメント> 連絡帳に、昨夜や今朝の健康状態を記入してもらっている。登園時には、家庭で検温して、保育士は鼻水や咳、顔色、様子などを視診して、その日の子どもの健康状態を確認している。保育中に発熱したなど体調不良があった時には、マニュアルに沿って対応している。37.5℃以上の発熱の際は、園長から保護者に電話連絡して、迎えを依頼している。マニュアルには、緊急時の対応や救急車、保護者への連絡、子どもの別室への移動などを記載している。午睡中のSIDS（乳幼児突然死症候群）対策として、0歳児は5分おきに、1～2歳児は10分おきに、姿勢や呼吸状態を観察して、記録に残している。SIDS情報を保護者に伝える方法を、現在検討中である。	
【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b
<コメント> 年2回、小児科の囁託医による健康診断を実施している。健康診断の結果は、その日のうちに保護者に伝え、健康状態に異常があれば病院への受診を促している。また、年2回、歯科医師による検診を行い、歯科検診の結果も、その日のうちに保護者に伝え、虫歯にかりかけている子どもは、受診を勧めている。	
【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<コメント> 現在、アレルギー対応が必要な子どもが利用を始めている。アレルゲンは小麦、乳製品、クルミで、現在はお弁当を持ってきており、徐々に、ご飯の提供や、除去食として副食も提供できるよう、保護者や医師と相談して取り組みを進めているところである。対応の手順は、マニュアルにまとめていく予定である。	
A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
<コメント> 子どもたちが楽しく食事を摂ることができるよう、無理なく少しずつ食材を増やすようにしている。食育に力を入れており、年間計画に基づき、0歳児は離乳食から食べることに喜びを持つこと、1歳児はスプーンやフォーク、コップを持って食事をする、2歳児は箸を使って食べることや友だちと一緒に食事のマナーを身に付けることなど、子どもの発達段階に応じた食育を行っている。また、キュウリや玉ねぎ、ジャガイモ、パプリカなどを触る体験をしている。土の付いた野菜と洗った後の野菜を比べてみたり、調理された野菜と比べてみたりして、食材への興味を持つ取り組みを行っている。ハロウィンにはカボチャ型のケーキを、クリスマスにはマッシュポテトの雪だるまを提供して、子どもたちは大喜びで食べている。全部食べると、お皿の底に動物の絵が出てくるなど、子どもたちが楽しみながら食事ができるよう工夫している。	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント> 食材は業者から取り寄せ、調理員が調理をしている。毎朝、食材が届くと温度を測り、冷蔵庫や冷凍庫に保管し、調理員が食材を確認し、調理室にて調理を行っている。現在、0歳児は離乳食が終わり、幼児食を提供している。調理員は、子どもの食べている様子や残菜の量を確認したりしている。人気のある献立や、食べ進みの悪かった献立などを確認し、献立に反映している。お替りをする子どももおり、子どもたちは毎日の給食を楽しみにしている。調理員も子どもたちの中に積極的に入っている。	

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b
<コメント>	
保護者とは朝夕の会話を多くとり、毎日の連絡帳で情報交換を密に行っている。2ヶ月に1回、園だよりを発行して、子どもたちの園での生活の様子を、写真を添えて伝えている。園内の廊下には、日々の活動がわかる写真を展示して、園での子どもたちの姿を見てもらっている。保育参観では、ペープサート（子どもを対象とした紙人形による寸劇）を見る、絵本を見る、模造紙にお絵かきをするなど、保護者も一緒に参加して楽しんでいる。	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<コメント>	
保護者が相談しやすいよう、保育士から先に声を掛けるなど配慮している。保護者からの相談は随時受け付けている。保護者からは担任に相談することが多いが、主任や園長も相談できる体制を整えている。保護者の相談は「園ではよく食べるのに、家ではあまり食べない」「夜泣きがある」「歩行が遅い」など、子育てに関する心配事が多い。園内の部屋でゆっくり話を聞き、適切に答えるようにしている。相談内容は記録に残し、職員間で共有している。就労に関することや、園で解決できない個人的な事情は、役所や関係機関と連携して対応している。	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<コメント>	
毎朝の視診で、身体のあざや傷、やけどなどを確認している。また同じ衣服を何日も着ていないか、普段と異なる子どもの素振りや食事の状況などを見逃さないようにしている。保護者の様子にも気を付けている。虐待防止マニュアルを整備し、年1回、内容の読み合わせを行っている。園内に市の虐待発見の手引きを掲示し、注意喚起している。職員は市の研修に参加して、ミーティングで内容を報告している。	

## A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<コメント>	
指導計画の実践の中で、保育の振り返りを行い、保育のあり方の改善に努めている。保育士自身の振り返りとして、市の「よりよい保育のためのチェックリスト保育士用」に取り組む他、園独自の「保育所における自己点検・自己評価」を用いて、自身の振り返りを行っている。	